

地域に根ざした病院経営

より密接な患者との関係を目指して 大判インクジェットプリンタを活用

東京医科大学霞ヶ浦病院では、地域医療の中核を担う大学病院として、院長自ら患者主体の病院経営に取り組んできた。そのひとつが大判インクジェットプリンタ、マックスアートの導入だ。患者とのより密接なコミュニケーションづくりのために多面的に活用、患者やその家族から高い評価を得ている。



東京医科大学霞ヶ浦病院
 ■所在地 〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1
 ■TEL 029-887-1161 ■FAX 029-887-6266
 ■URL <http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>
 ■病床数 548床

既存の体制にとらわれず 患者主体の病院経営を徹底

茨城県稲敷郡阿見町に東京医科大学霞ヶ浦病院が開設されたのは昭和23年11月。2万5000㎡の敷地に今では外来本館、人工透析棟など7棟が並ぶ。松岡健氏が同病院院長に着任したのは2004年10月。以来「変わらなければ!」をモットーに、職員の意識改革、病院の構造改革に積極的に取り組んできた。その根本にあるのは徹底した「患者主義」だ。

就任早々全職員と患者を対象にア

ンケートを実施、組織主体の縦割りの病院ではなく患者主体の病院にするために、既存の科の垣根を越えた診療体制などを次々実現してきた。

「医療の本質は人と人とのふれ合い」とする松岡院長が特に重視したが、病院と患者との良好なコミュニケーション作り。着任と同時に広報・企画室を新設したことからも分かる。

院内の各種表示を 患者の視点で再構築

病院内にすでにある多数の掲示をどう改善するか。広報・企画室で関連業務を一手に手掛けることになった坂本知憲氏は検討を重ねた結果「患者主体」「見やすく分かりやすく」「変更を早急に反映させる」という3点に絞り込んだ。

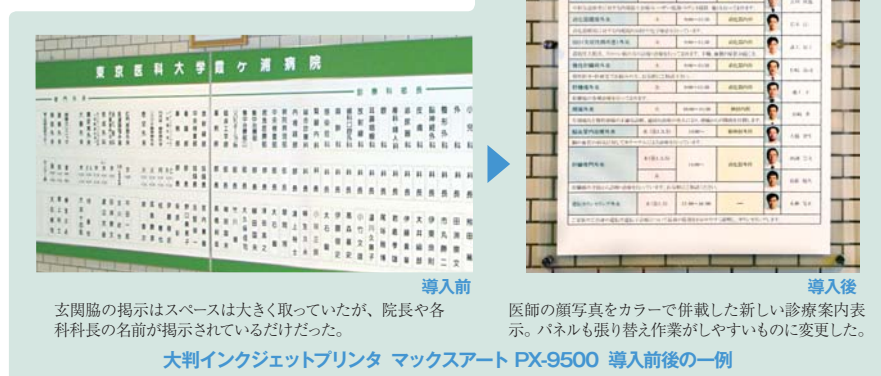
たとえば、同病院正面玄関脇の診療科長・部長紹介や専門外来紹介の大きな掲示には、院長名や各科の科長名が掲示されているだけだった。こ

れでは患者と医師との接点とはいえない。そこで医師名の横に医師の顔写真をカラーで併載、また色分けし見やすくした。

以前は階数と科目だけだった外来フロアや病棟の案内図も、イラスト中心にして患者の視点で見直し、現在地との関係を分かりやすくした。

掲示内容が実態を反映していないことも問題だった。同病院では、月平均5~6名程度の医師の離・着任があり、また診療科のレイアウト変更や移動も多い。だが、掲示物の制作を外部の業者に委託していたうえに、制作費が高かったために、更新が後回しになるケースや時間がかかるケースがあった。

来院する高齢患者が、ある程度離れていても読めるようにするために



は、これまで通りの大判サイズでの掲示はどうしても必要だった。

課題を一気に解決するために急浮上したのが、大判インクジェットプリンタの導入だった。データを作成すれば、あとはプリントアウトするだけ。外注に比べれば、コストも格段に下がるうえ、急な変更やお知らせをすぐに患者に伝えられる。

検討を重ね導入を決めたのが、エプソンの大判インクジェットプリンタ、マックスアート K3シリーズ「PX-9500」だった。3種類の濃度の黒インクを使うPX-P/K3インクを搭載したPX-9500は、レントゲン写真の微妙なグレー部分の階調を鮮明に再現できることも大きなポイントとなり、発売を待って導入した。

院内で多彩に活躍する 大判インクジェットプリンタ

PX-9500導入後、院内の掲示は一変した。医師のカラーの顔写真が添えられた新しい診療案内表示の効果は大きかった。「入院患者が見舞い客に、自分が診てもらっているのはこの先生と掲示板の前で説明する光景が一気に増えた」という。それどころか、患者から「自分がかかっている医師が掲示されていない」という問い合わせがあったことがきっかけになり、掲載対象を講師以上に一気に拡大、医師と患者のコミュニケーションが格段に円滑になった。



PX-9500は、地下のコピー室に設置。院内LANに接続され、月平均の利用は100枚近くになる。



検診センターの待合室に掲示された各種掲示。レントゲン写真もPX-9500なら分りやすく再現できる。



「敷地内」全面禁煙のためにのぼり旗も、PX-9500で作成した。

大判カラープリントの用途はそれだけにだけにとどまらない。

松岡院長は、病院を1日開放して近隣住民に院内を見学・体験してもらう「いきいき健康フェスティバル」を昨年10月の第3日曜日に開催している。地域住民に開かれた病院という方針を理解してもらうためであることはいうまでもない。

フェスティバル当日、院内の最新の各種医療機器紹介や、レントゲン写真による病気の紹介などの掲示にもPX-9500はフル活用された。見学に訪れた600人近い人たちが熱心に見入ったという。

そのときの各種掲示物は、今でも検診センターの待合室に掲示され、診療までの待ち時間に患者が見て、病気や治療についての理解を深める一助になっている。

PX-9500は、院内の医師や看護師が学会で発表する各種資料の作成にも活用されている。大判のカラープリントは格段に見やすく、一度使うとその違いを実感するという。

また、松岡氏が院長就任直後に実施したアンケートで明らかになった「駐車場が遠い」という不満を解消するために、院長車1台・公用車1台を売って車両を導入し、病院の玄関と駐車場を5分間隔で結ぶシャトルバスサービスを実施。さらに、大学病院では京都大学、帝京大学市原病院に次いで昨年5月から敷地内全面禁

煙を実施している。

こうした新しいサービスや試みを周知徹底するために、院内に設置するのぼり旗もPX-9500で自作しているのがある。「こんな活用法があるとは思いませんでした。風雨にさらされる屋外に置いています、まだ作り直したことはありません。」という。

いずれの制作物も、同病院写真室の医療写真技師、三枝浩二氏がデザイナーとして加わりより見やすいものにまとめあげている。

今後はさらに、地域の提携病院の所在地を分りやすく表示した大判のカラー地図を作成して、中央待合室に掲示したいという。それは、同病院が地域の提携病院と密接な連携をとりながら、地域医療の中核を担う総合病院として機能することをより鮮明にすることにほかならない。

地域社会に根付いた患者主体の大学病院作りに、PX-9500が活躍する機会は今後もいっそう増えそうだ。

マックスアート K3 PX-9500

<http://maxart.jp>

価格: ¥598,000 (標準価格/税別)

インク: 顔料8色 (独立タイプ)

対応用紙最大サイズ: B0プラス



お問い合わせ

エプソン販売株式会社

URL <http://maxart.jp/>

エプソン購入ガイドインフォメーション 050-3155-8100

受付時間 9:00 ~ 17:30 (月曜~金曜)

※祝日、エプソン販売(株)指定休日を除く